

碩菴学園 今より

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

ミルクパーラーでの搾乳実習

Vol. 91
2001.2.15

聖句

「どのようにして、若者は歩む道を清めるべきでしょうか。
あなたの御言葉どおりに道を保つことです。」 (詩編119編9節)

理事長のあいさつ

21世紀の船出に当たって

—教育の質的向上への取り組み—

理事長
平尾 和義

新しい年を迎え、いよいよ21世紀の幕が開かれました。新しい世紀を迎えられたことを皆様と共に喜び、本年は新世紀第1年目の船出の年に当たりますが、心を新たにしてお有意義な日々を重ねる1年としたいと思います。

教育改革が叫ばれてから久しく日が経ちますが、今、教育をめぐる環境は大きく変わり、17歳高校生事件、少子化現象、IT革命など、前世紀から引き継いだ数々の難しい課題を抱えており、教育に携わる者として一層気を引き締めて、解決へのチャレンジを続けなければならないと思います。

「酪農学園ブランド」の確立を

昨年は大学・大学院および短大部ハイテク・リサーチ・センター整備事業とともに、長年の懸案である学園キャンパス農場再編整備が終わり、またこれと併せてキャンパス外農場の活用についても、今後の展望を持ちつつあることは、近年にない有意義な年であったと考えています。

これらの施設設備の基盤整備が、本学の特色ある教育研究を推し進め、深めると同時に、本学独自の教育理念に基づく酪農システムの構築、発展を目指して専門教育の深化と総合化を図り、また社会の構造変化に対応しながら専門性を生かし、今後の学園教育の多様化を進めるためにも、その成果が期待されます。

本施設が適切な管理運営の下で大学、高校を含む全学園的視野からの効果ある活用を願っており、またその役割が課せられています。

教育の質的向上を目指して

施設設備の充実と教育研究のそれとは表裏一体でなければなりません。本年4月から大学酪農学部食品科学科では「健康栄養学専攻」を設置、高校では酪農経営科の「男女共学」実施が予定され、今、その準備と作業が進められています。

学園が本来の使命を体し、教育機関としていつの時代でも教育内容の不断の見直し、改革、

改善は当然の責務ですが、これら教育体制、枠組みの変更によって教育内容や施設設備など教育環境の充実が一層図られ、社会のニーズに対応した特色ある教育サービスが提供されることとなります。

さらに、時代を反映し、大学では他大学との単位互換協定、ヨコの連携により、学生の教育の幅を広げるなどの試みがされようとしており、学内タテの連携、高校大学連携についても、単に進学連携に止まらず、入学前の事前教育の実施など、時代に合わせアレンジした教育連携がいろいろと模索、検討されています。

教育改革は良き伝統を守りつつ、学園創立の原点を見失うことなく、他では真似のできない独自の新しい価値の創出と教育環境の整備のため、変えるべきは勇気をもって変えていかねばならないと考えていますので、校友の皆様、ご父母の皆様、関係各位の本学園への変わらざるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

キャンパスレポート



短大開学50周年 大学開学40周年 記念シンポジウム

酪農学園大学および同短期大学部は11月25日、短大開学50周年・大学開学40周年記念事業の一環として、記念シンポジウム「酪農学園創立者たちのまぼろしから」を開催、本学役職員や旧職員、同窓生など約70人が参加しました。

午後3時から札幌市のシェラトンホテル札幌で行われたシンポジウムは、高橋節郎氏（同窓会連合会会長）が「大学短大初代学長・樋浦誠のまぼろし」、安宅一夫氏（大学・短大学長）が「宇都宮仙太郎のまぼろし」、佐藤巖氏（佐藤貢氏のご子息）が「佐藤善七・貢のまぼろし」、黒澤信次郎氏（黒澤西蔵氏のご子息）が「黒澤西蔵のまぼろし」との各テーマで講演、酪農学園創立者たちの志を参加者とともに反芻、回顧しました。

短大・創期生の高橋氏は、まず学生時代の思い出を振り返りながら樋浦学長の人柄や哲学を紹介。「樋浦先生は“実学の中の実学”を実践した方だった」と表現しました。また、安宅氏は宇都宮先生が提唱した酪農三徳（①役人に頭を下げなくてもよい、②牛にはウソをつかなくてもよい、③牛乳は人々を健康にする）について先生の生き方を通して説明しました。

一方、佐藤氏は祖父・善七氏、父・貢氏の足跡を紹介しながら「2人の人生観、農業観についての考え方は全く同じで、2人は一体であった」と強調、酪農に対する両者の共通した信念として「北海道の農民は農業の仕事にいそしみながら乳製品を作り、自らの生活を豊かにし、農業経営を安定しなければいけない。それは同時に、国民生活の向上にもつながる」と語りました。さらに、黒澤氏は「父は父親であると同時に、人生の大先輩だった」とした上で、西蔵氏が遺言状の冒頭に記した「父の生涯は日本における酪農の開発振興、北海道を東洋のデンマークに育成することにあり、よって雪印の前身・酪連の創設も酪農学園の創立も、その一端に過ぎない」などの言葉を披露しました。

牛島純一前学園長の 勲三等瑞宝章 受章記念祝賀会が 開かれる



牛島純一前酪農学園長の勲三等瑞宝章（教育研究功労）の受章記念祝賀会が11月14日、札幌市のシェラトンホテル札幌で教育

および学園関係者など約110人が出席して盛大に開かれました。

祝賀会は安宅一夫学長の開会の言葉の後、牛島先生が万雷の拍手の中を笑顔で入場。引き続き、発起人を代表して平尾和義理事長が「私たちが敬愛している牛島純一先生が、長年にわたる私学振興と高等教育における輝かしいご功績により、栄えある勲章を受章されたことは誠にめでたいことで、ここに心よりお祝い申し上げます」とあいさつ。その後、遊佐孝五前理事長（現理事）、卒業生を代表して野村武氏（獣医学科第1期生）、山下正亮元獣医学科長（貴農同志会会長）がそれぞれお祝いの言葉を述べました。

種池哲朗獣医学部長や獣医学科同窓生からの記念品および花束贈呈に引き続き、壇上に立った牛島先生は「昭和23年に酪農学園創設者・黒澤西蔵先生の特徴ある私立大学設立への情熱に共鳴し、一教員として参加、以来今日まで三愛精神、実学教育、健土健民という建学の理念を具現すべく微力を尽くして参りました1人として光栄に思っております。これも酪農学園創設以来、幾多の困難を克服して特色ある研究教育の場を築き上げてこられた多くの先輩、同僚教職員、学園に関係する皆様、そして数多くの教え子のお力によるもので、今回の叙勲は私に与えられたと申しますよりは、酪農学園に与えられたものと考えて

おります。そして、酪農学園を通じて教育という素晴らしい仕事に生涯携わり得たことの幸せと、それを通じての素晴らしい方々との出会いのありがたさに感謝するのみです。本日は誠にありがとうございました」とお礼の言葉を述べました。

この後、松井幸夫名誉教授の音頭で祝盃、祝宴へと入りました。祝宴では、牛島先生自らが出席者全員の席を回り、一人ひとりと握手を交わしながらお礼と感謝の言葉を述べる姿が印象的でした。

坂本与市前短大学 長が短期大学教育 功労者表彰

文部省の短期大学教育50周年記念式典が10月25日、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで開かれ、この席上で坂本与市前短大学長に短期大学教育功労者として表彰状が贈られました。

この賞は、短期大学教育に長く従事し、その功労が顕著な者および短期大学教育に功績があった者を文部大臣が表彰し、その功に報いることを目的としています。

坂本前短大学長は、平成元年から2期8年にわたり北海道文理短期大学（現・酪農学園大学短期大学部）の学長として短大教育の充実・発展に尽力するとともに500人を超えるゼミ学生を社会に送り出してきました。



intelligent cowshed

P I C K U P

特集

インテリジェント

酪農学園大学 教授（農場長）

岡本全弘

酪農学園大学・大学院および同短期大学部のハイテク・リサーチ・センター整備事業の主要施設であるインテリジェント牛舎システムが昨年11月に完成、本格的に稼動を開始しました。同事業では「酪農における情報と物質のリサイクルシステムの開発研究」というテーマの下に「酪農情報の管理と利用」「酪農における物質循環」「機能性食品」の三分野を研究しますが、前二者がインテリジェント牛舎と関係しています。

インテリジェント牛舎という名称は聞き慣れない言葉だと思います。この名称はインテリジェント・ビルディングという言葉

をヒントにした造語です。広辞苑によれば、インテリジェント・ビルとは「従来のビルの機能にコンピュータで制御した高度な情報通信システムとビル管理システムを付加したビル」とあります。本学の牛舎システムは、まさに「従来の牛舎の機能にコンピュータで制御した高度な情報通信システムと牛舎管理システムを付加した牛舎」と呼ぶのに相応しいところから名づけました。やはり言葉では『IT牛舎』です。この牛舎を活用することによって「酪農界に質の高い研究情報を提供しよう」と考えています。

さて、NASAのスペースシャトルが新規開発はないものの最新の既存技術を駆使して宇宙開

発しているように、インテリジェント牛舎も最新の既存技術を網羅しています。その基本となる技術は個体識別技術です。これにより牛舎内を自由に移動する牛の個体を要所所で識別し、自動測定したデータをコンピュータに取り込むことが可能になりました。

自動測定項目は多岐にわたりますが、例えば搾乳室では個体番号を識別し、乳量を記録し、乳温やミルクの電気伝導度の異常を検知し、警告を発して記録します。また、乳質に異常のある牛は、正常な牛のミルクと混ぜられないように別系統の搾乳を指示します。ミルクパイプの中のセンサーにより流量を感知し、搾り過ぎないように自動的に搾乳を中止します。

搾乳室からの帰り道には体重計があり、自動的に体重を測定し、健康や栄養状態の指標にします。牛舎内での運動量も自動計測し、発情発見の目安にします。もちろん、育種情報である牛の家系図やお腹にいる胎児の父親の情報、発情や妊娠などの繁殖情報、病気や故障の治療法・治療歴などの電子カルテ、乳量・乳成分の変動などの生産情報、飼料や栄養状態などの情報等、多彩な情報を管理するとともに学内ネットワークとも接続しています。

精密試験ストールでは試験牛が何時何分にか何kgの飼料を摂取したのかを記録します。また、牛舎内の監視カメラの映像も記録し解析できるようになっており、牛の行動を高い位置から観察できるような観察通路も備えています。

自動搾乳システム牛舎では、自発的に搾乳ロボットにより搾乳されるので、上記の情報に加



フリーストール牛舎（木造トラス造）

乳牛の栄養、生理、繁殖、管理、行動などの研究と教育を行うフリーストール牛舎

搾乳牛60頭(2群)、乾乳牛10頭(2群)を収容。そのほかに、分娩房、ホスピタル牛床(8床)、精密実験牛床(12床)も設置している。また、ストールの上部には見学通路を設けている。



牛舎完成 (ハイテク・リサーチ・センター整備事業 酪農学園大学・大学院・短大部)



ミルクパーラー(鉄骨造)

ヘリンボーン10頭単列のミルクパーラー (見学室付き)



自動搾乳システム牛舎 (木造トラス造)

搾乳ロボットを設置する自動搾乳システム牛舎

えて各牛の搾乳記録や種々のチェックリストなどが提供されます。また、個体に応じた飼料給与やミルクの自動サンプリングなどもできます。

同様に哺育中の子牛は哺乳ロボットにより個体に応じた哺乳がなされ、哺乳記録が提供されます。また、整腸剤などの自動投与もできます。

各牛舎で排泄されたふん尿はふん尿槽に集められ、地下パイプを通してバイオガスプラントに送られます。バイオガスプラントでは、これを嫌気発酵して良質で無臭の液体有機肥料を生産するとともにバイオガスを回

収し、発電機を運転して電気と80℃の温水を得ることができます。もちろん、プラントの運転情報は自動記録され解析されます。

ハイテク・リサーチ・センターでは上記のような牛舎内外の情報の収集・管理に加え、各圃場からの飼料生産量やサイレージの生産量、飼料の給与量、ふん尿の発生量、液肥の生産量や散布量など物質の循環量や土壌の状態、昆虫や微生物の関与などまで幅広く研究します。インテリジェント牛舎は、こうした研究に便利のように配慮されています。



哺育牛舎(木造トラス造)

哺育ベン(8頭)と哺育ロボット(30頭まで)を設置する哺育牛舎



乳牛糞尿循環研究センター(鉄骨造)

バイオガスプラントを設置する乳牛糞尿循環研究センター



学園トピックス



酪農学園大学・大学院
酪農学園大学短期大学部

米野浩二さんの出品牛が第11回全共 で名誉賞に輝く



日本ホルスタイン登録協会主催の『第11回全日本ホルスタイン共進会』が11月2～5日の4日間、岡山県灘崎町で全国44都道府県からの代表牛300頭が参加して行われ、酪農学園大学短期大学部酪農学科2年の米野浩二さん（熊本県熊本市）の出品牛「コージ ダークスター エデン」が経産牛（2～3歳クラス）部門の名誉賞に輝きました。

同共進会は「5年に一度の乳

牛の祭典（乳牛のオリンピック）」とも呼ばれ、ホルスタイン種の改良増殖の推進と酪農業の伸展などを目的に昭和26年に神奈川県平塚市で開かれた第1回大会以来、半世紀の歴史を刻む伝統と名誉ある大会です。

米野さんは、今回の栄誉について「思いがけないトップで、涙がこみあげてきました。あの感動は忘れられませんね。これも皆さんのご指導、ご協力のおかげで、全共会場で自分の牛以上に手をかけ、仕上げてくれた仲間たちに感謝します」と喜びを語っていました。

次々あふれる アイデアレシピ！ ～大学院生、料理大会 で活躍～

昨年12月に大学院酪農学研究科1年の三浦孝之さん（応用生化学研究室）がNHK『きょうの料理大賞』において審査員特別賞に輝きました。3,000以上の応募



募の中から本選に進んだ「酪農学園からの贈り物・男爵フロマージュ」は北海道産のじゃがいも、乳製品、黒豆などが材料のお菓子です。

「創作料理は自己表現の一つ」と語る三浦さん。「今回は大賞を取れず少し悔しいけど、すごく楽しかったです。食材の“普段捨てられる部分”に着目し、スポーツフードについても研究したいです」。

ご家族や研究室の熱い応援を受けて、次回「チキンクッキングコンテスト」に挑戦。「目標は農林水産大臣賞です」。ぜひ、また学園のPRに一役買っていたきたいですね。



岐阜経済大学と 学生交流協定締結

酪農学園大学酪農学部は昨年11月2日、岐阜経済大学経済学部・経営学部と学生交流協定を締結しました。



本学で行われた調印式には、岐阜経済大学から谷江幸雄経済学部長、酒井博世経営学部長、石原健一教務部長、安田天教務課主査が、本学から安宅一夫学長、鮫島邦彦酪農学部長、工藤英一農業経済学科長、市川治教務部長らが出席しました。

同協定の締結により、本年4月から、毎年2名ずつ相互に学生を派遣し、それぞれ所定の単位取得が可能となり、本学では農業経済学科が学生を受け入れます。

和やかに進められた調印式の席では、両大学から「お互いの地域性と専門性を活かし、豊かな経験と勉学の場に」「経済学と自然科学の融合の道を」と、今後の交流発展への期待が述べられました。



とわの森
三愛高等学校



首里城にて

PTA秋の文化行事

PTA研修部では、秋の文化行事を行いました。9月16日、札幌芸術の森見学。10月13日、拓殖大学北海道短大教授の相馬暁先生をお迎えして「豊かな生・豊かな食・そして豊かな地球」（現代の食生活と子供たち）というテーマで講演していただきました。11月17日、『パイプオルガンとフルート・オーボエの夕べ』を本校礼拝堂で行いました。フルートは本校卒業生の加勢麻衣子さん（東京芸大）に演奏していただきました。それぞれ有意義な時を過ごしました。

普通科2年生 京都・沖縄に修学旅行

10月23～28日までの6日間、普通科2年生の修学旅行が行われました。

「未来への第1歩＝20世紀～21世紀」を主題、「過去を学び私たちができること」を副題として、京都の自主研修では古い日本の歴史にふれ、また沖縄では沖縄キリスト教短大で礼拝を行い、金城重明牧師による沖縄戦での集団自決の体験談や戦蹟めぐりを行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。

酪農経営科3年生は 欧州研修旅行

10月28日から11月10日までの14日間、酪農経営科3年生の欧州研修旅行が行われました。

デンマークではファームステイをして酪農実習を行ったり、農業施設を見学しました。

その後、スペインやフランスを訪れ、ルーブル美術館、ノートルダム寺院など歴史的遺産を見学しました。

生徒は異文化を肌で感じ、とても良い経験をしたと感想を述べていました。

同窓会だより

◆◆福島県支部の総会と講座◆◆

11月26日、郡山市において福島県支部の総会と教育講座が開催されました。当日、来賓講師として同県の植田酪農組合長、本学の高橋副理事長（同窓会連合会長）が出席致しました。

昨年、本学の酪農公開講座を開講した際に支部を設立しましたが、今年度は早速総会と学習会を開き、講師を招いて「今後の福島と食料問題」についての講演が行われました。また、高橋副理事長より本学園の教育事業と同窓会活動についてのあいさつ、さらに今後の理解と協力を求めるなど、有意義な交流が行われました。



◆◆岐阜、愛知両県支部の総会と学習会◆◆

本学の酪農公開講座が11月28日に岐阜県、29日に愛知県で、両県同窓会の協力を得て開講さ



れましたが、同講座に前後して両支部の総会および学習会が行われました。この総会には本学から高橋副理事長（同窓会連合会長）および講座担当の岡本、永幡、中原の各講師が出席、本学の教育事業への理解と協力を

求め、さらに今後の同窓会活動を激励する等、大いに交流を深めることができました。



◆◆獣医学科各卒業期別および支部同窓会◆◆

獣医学科各卒業期別の記念同窓会は、4期卒業の30周年記念が7月21日に行われ、14期卒の卒業20周年記念が8月5日に、続いて8月19日には22期卒業の10周年と、卒期別に10周年ごとに、黒澤記念講堂での礼拝と教室で講師との技術の交換交流を行いました。さらに、場所を宿泊のホテルに移し、先生を囲んで忌憚のない交歓が行われました。

同学科・獣医解剖学教室同窓会では7月22日、シェラトンホテル札幌で「獣医解剖学の歩みと現状について」の教育講座と交流も行われました。

また、支部同窓会においても、大阪地区の日本獣医畜産学会終了後（11月7日）をはじめとして、福島県支部（11月11日）、宮城県支部（11月18日）、栃木県支部（12月16日）と、いずれも本学の先生を招いて研修交流会が行われました。

◆◆関東同窓会役員（1都6県の支部長、事務局長）会議◆◆

2001（平成13）年度同窓会の事業活動の議題「各支部活動の推進事項等」について、1月12日に伊東市ヤクルト研修センターで研修会が行われました。

◆◆青森県支部同窓会が開かれる◆◆

1月26日、青森県支部の同窓会総会が開催され、教育講座と学習会および役員改選が行われました。役員改選では新支部長に附田彰二（獣医1期）、事務局長は村井孝生（獣医21期）の両氏が選任されました。

講座・学習会では、高橋副理事長（同窓会連合会長）から酪農学園の教育と同窓会について、教育講座では青森県の丸井畜産指導官から「畜産が変える地域農業」について講演が行われ、有意義な同窓会となりました。

同窓生会員名簿の発行と注文について

大学、短大、大学院各学科合本版「2001年版」を発行し、下記要領により事前納金により注文を付けております。

* 頒布価格 1冊単価5,500円（送料含む）

* 注文方法 「同窓会会員名簿1冊発注」と受取人住所・氏名、卒業学科・年度を明記し、郵便局備付用紙にて振込みください。

口座番号 02720-7-25044 同窓会校友会

◆◆とわの森三愛高校同窓会◆◆

3月の卒業式を前に、21世紀を迎えた初の10期生310名の同窓会の入会式が、2月27日に行われます。これまでの同窓会の会員総数は3,564名となります。

2001年度に計画されている事業

各卒業学年ごと幹事会により、次の事業を計画しております。

◎2001年10月に、とわの森三愛高校統合10周年記念事業を計画致しております。

◎同窓会誌の発行を予定しております。

会員皆さんの住所変更の連絡のお願いと、近況の記事掲載も計画しておりますので積極的に投稿してください。

◎三愛会（三愛女子高校）第18期同期会開催のご案内

開催期日 2001年6月16日（土）18時より

開催場所 札幌第一ワシントンホテル

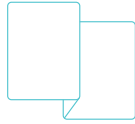
多数ご出席くださるようお待ちしております。

※住所変更の場合連絡のお願い

住所を変更された場合、下記のいずれかの方法で同窓会事務局にご連絡ください。

* 電話番号 011-386-1196/FAX 011-386-5987/
手紙またはハガキ

* Eメール rg-dosok@rakuno.ac.jp



酪農育英会だより

奨学金の返済等についてお願い
〔返還金について〕

平成12年度分の返還金は、送金されましたでしょうか。

さまざまな事情にて返還金が困難となった時は、一定の条件を満たしていれば返還が猶予することがあります。ご遠慮なくご連絡ください。

〔住所等の変更について お願い〕

奨学金の返済についての通知を年間2~3回送付していますが、必ず「転居先不明で配達できません」と差出人に返送される郵便物が10通以上あります。住所等に変更があった時は、必ず連絡をくださいますようお願い

いたします。

女性は、結婚を機に連絡がとれなくなりがちです。どうか、お忘れなく事務局までご一報ください。

1. 結婚（改姓）
2. 転居
3. 町名地番の変更（電話番号変更）

〒069-8501
江別市文京台緑町582番地
電話011-386-1212

財団法人
酪農育英会 事務局

酪農育英会奨学規程
〔奨学金の返還猶予）一部抜粋

第20条 貸与奨学生であった者が次の各号の一つに該当する場合は、願出によって奨学金の返還を猶予することがある。

事由	証明書	期間
①災害	罹災証明	1年以内
②負傷、疾病	診断書	1年以内
③在学	在学証明	修学期間
④進学準備	予備校等	1年以内
⑤やむを得ない事由	事実を明らかにする書類	1年以内

以上の事由より返還猶予の期間は、③以外については1年以内とし、さらにその事由が継続する時は、願出により1年ずつ延長することができます。

酪農学園大学
キャンパス写真集
「from G」を頒布

入試課

酪農学園大学入試部入試課はこのほど、酪農学園のキャンパスの四季とさまざまな風物詩を収めた写真集



『from G』（A4変形版、68頁オールカラー）を発行、希望者に無料頒布致します。

希望者はハガキに住所、氏名、電話番号および「from Gを希望」と明記の上、下記までお申し込みください。

〒069-8501
江別市文京台緑町582番地
酪農学園大学入試部入試課
「from G」係

- ※フロムGの「G」は
- 酪農学園の風景や環境を象徴する「緑=Green」
 - 牧草や草を表す「グラス=Grass」
 - 大きくなる、育つ、成長を表す「グロー=Grow」
 - 大地の女神、ギリシャ神話に登場する「ガイア=Gaia」
- 以上のような意味合いが込められています。

編集後記

★待望のインテリジェント牛舎が完成。注目のバイオガスプラントは、その発電システムに目を奪われがちですが、「それは副産物で、本来の目的は良質な液体有機肥料を確保し、創業者・黒澤西蔵が提唱した“循環農業”を確立すること」と岡本全弘教授。『循環と共生』。本学が追い求める永遠のテーマです。(S)

★或る事で取材される立場に。あれこれ話す事を考えていたのに半分くらいしか果たせませんでした。Eメールなら言えた？直接的なコミュニケーションが苦手な人を増やす気がして怖いIT革命。新世紀は、“メル友”ばかりではなく、顔の見える出合いをたくさんしたいものです。(M)

酪農学園だより

RAKUNO GAKUEN Vol. 91
発行：学校法人 酪農学園 2001. 2. 15

酪農学園大学/大学院/酪農学園大学短期大学部
とわの森三愛高等学校
編集：学園広報室

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582
TEL (011) 386-1111(代) FAX (011) 386-1214
Email : koho@rakuno.ac.jp